



## 令和三年度 高等学校等クラブ活動・地域振興 活動助成事業

# 過去最高額約六千万円で 積極的な助成を展開

伊藤青少年育成奨学会(公益財団法人、田代久美子理事長)は、過去最高額となる総額約六千万円の令和三年度高等学校等クラブ活動並びに地域振興活動助成事業を実施します。

令和三年度助成事業への応募団体は、高等学校等助成に五十二校、(〇七クラブ(内運動クラブ七十、文科系クラブ三十六)、助成申請額八千九百十二万円余、地域振興団体等二十八団体、助成申請額 千三百 千九万円余で、申請総額は一億二千四百四十二万円余にのびました。

この中から、書類選考による厳正な審査の結果、高等学校等クラブ活動四十校、六十一クラブ(内スポーツクラブ四十四、文科系クラブ十七)、地域振興団体等十六団体を令和三年度助成団体として認定。助成額は高等学校等クラブ活動四千三百九十九万五千八百円(内運動クラブ三千四百九十九千八百円、文科系二千二百四十四万六千円)、地域振興団体二千六百六十万円で、総額は過去最高額の五千九百七十九万五千八百円となりました。

当奨学会は、平成十一年十二月二十七日の設立で、翌平成十二年度から大学奨学生への奨学金給付事業と並び主要事業として、青少年の健全育成ならびに地域社会の活性化に寄与するため、岐阜県内の高等学校や特別支援学校等のクラブ活動や、地域団体等による地域振興活動を支援する助成事業を



<写真:令和三年度高等学校等クラブ活動・地域振興活動助成事業 贈呈式>

実施、平成三十一(令和元)年度までの助成実績は約五億円にのびります。

令和二年度は、コロナ禍により全国的にスポーツイベント等の自粛が拡がる中、当奨学会も助成事業を中止しました。コロナ禍の制御は進退ではありませんが、そんな中においても、前向きに活動を推進しようとする若い力を応援するべく、今年度は積極的な助成を展開する方向へ舵をとりました。

## 被支援団体の紹介

(高等学校の社会貢献事業例)

### 自走式ロボット草刈り機によるクリ栽培の活性化

岐阜県立恵那農業高等学校 果樹班

地域特産品のクリの栽培は、生産者の高齢化や担い手不足等の課題に直面している。この対策として、自走式草刈り機を導入により効率化、活性化を図るとともに、若い世代から高齢者まで、幅広い層に向けて新たなクリ栽培の方法を発信していく。

### 希少種「美濃柴犬」「木曾馬」で地域貢献

岐阜県立大垣養老高等学校 動物研究班

国の天然記念物に指定されている美濃柴犬を令和元年度から飼育し、保存会と連携して種の保存に取り組んでいる。今年度は、繁殖と普及に向け、岐阜大学とも連携し、遺伝子解析や人工授精にも取り組みたい。

また、ヒューマンサービス活動として、木曾馬二頭による障がい者乗馬の開催を目指す。

# 伊藤青少年育成奨学会 創設二〇周年記念事業

伊藤青少年育成奨学会

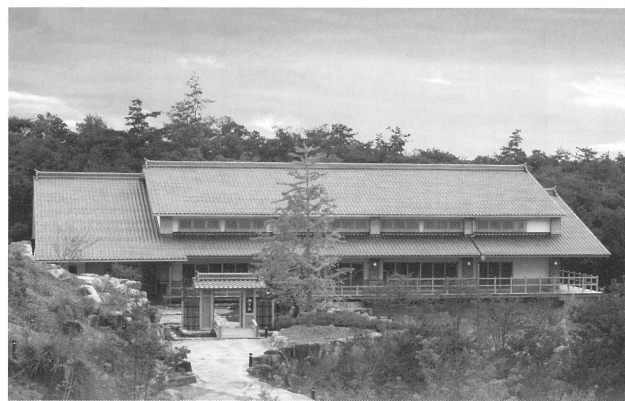
理事長 田代久美子

## 武道場『漱玉館』竣工

公益財団法人伊藤青少年育成奨学会が、創設二〇周年を記念して、伝統文化の伝承に資することを目的に、昨年度より、可見市大森の株式会社パローホールディングス人材開発センター「嫩葉舎」隣接地に建設を進めてきた武道場「漱玉館」が竣工、さつそく月から施設貸与事業を開始しました。

当奨学会は平成十九年、パロー創業の地である恵那市に「恵那市中央図書館(伊藤文庫)」を寄贈しており、市民の利用率の高い素晴らしい図書館として今日まで運営されていますが、武道場「漱玉館」は、「文武」の「武」という領域で、青少年に広く開放していくものです。

武道場「漱玉館」の周りは石垣や滝、堀が境界となり、神域のような雰囲気を感じています。



## 祝辞

岐阜県知事

古田 肇

公益財団法人 伊藤青少年育成奨学会の武道場「漱玉館」の完成に心からお祝い申し上げます。

貴奨学会におかれては、人材育成や地域活性化のため、これまでも学生に対する奨学金の給付、学校や地域が行うスポーツ文化活動等への支援に长年取り組まれており、心より感謝申し上げます。

このたびの「漱玉館」は、設立二〇周年を記念して令和元年に整備が計画されました。以来、新型コロナウイルス感染症の影響など様々な困難の中で、完成に導かれた田代理事長はじめ、関係の皆様

のご尽力に深く敬意を表します。

折しも、東京二〇二〇オリンピックパラリンピックでは、柔道空手などの武道競技において、日本選手が大活躍しました。今後さらに、「漱玉館」での鍛錬を通じて、多くの選手が世界に羽ばたいていくものと確信しています。

結びに、「漱玉館」が本県の新たな「日本武道の拠点」として、また、武道の素晴らしさ、礼節の大切さなどを伝承発信していく舞台として、大いに発展されますことをご期待申し上げます。併せて、伊藤青少年育成奨学会の皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## ごあいさつ

公益財団法人伊藤青少年育成奨学会で、武道場を作りました。道場の向いに滝を模した水の風景があり、滝から水が落ちしすく散るさまを「漱玉」といふことごとで、人間を育て磨く意味もこめて、「漱玉館」としました。

戦国の世が終わわり、江戸の泰平のなかで、武道は戦いの技術から形而上的なものへと変化したように思われます。精神の鍛練、修養に軸足が移り、道場の造りや意味も五感にこころよいものへの指向が強まったようです。

当道場も能舞台にならない、道場の床下に縄十個を口を上にして納めてあります。そうすることによって、足踏みをしたときの響きが良いと言われています。またその厚さ四十五ミリの杉の床板はしなり、素足の稽古をむねとする武道にとって足腰の負担が軽くなるよう作られています。

武道を修めることにより、精神が晴れやかになり生き方が腑に落ちるといふような、良き日本のこころをたずねるために、剣道、薙刀から禅までひろく漱玉館をお使いくださいとお願ひいたします。

建物規模は、用地約五千二百平方メートル(パローホールディングスから賃貸)、鉄骨造平屋建、床面積七百七十七平方メートル。剣道競技場施設基準に準拠する剣道競技場(十一×十一メートル)を二面設けており、他に師範室、更衣室、シャワー室等も完備しています。

剣道、居合道、薙刀(なぎなた)といった日本伝統の武道を通して、青少年の健全育成のために活動する団体や学校、実業団等に貸与するもので、練習や大会の開催、全国トップレベルの選手を招いての試合、



さらには、パローホールディングス人材開発センター「嫩葉舎」の宿泊施設を活用しての強化合宿などの利用も促進します。

貸出はホームページを通して行い、利用規則や費用などもホームページに掲載しています。

# 故・李登輝 台湾元総統

## 追悼特別企画 三

『李登輝さんと八田與一』

伊藤青少年育成奨学会

理事長 田代久美子

李登輝さんの訪日が可能になって、李登輝さんは早速金沢に行き、八田與一の生地を訪ねた。

司馬遼太郎は八田與一を台北に住む謝新發の『忘れられない人』という本で知る。司馬遼太郎の『街道を行く 台湾紀行』の案内人蔡焜燦さんに八田與一のことを聞くところ「こんな人です?」と聞き返され、その後古川勝三著『台湾を愛した日本人 八田與一の生涯』という本をさがしてくれる。

古川勝三氏は一九八〇年文部省海外派遣教師として台湾高雄日本人学校で三年間教鞭を執る。その後、台湾に関する本を何冊も表して、その中に八田與一がいた。ごく一部の、たとえば嘉南農田水利会の人々をのぞいて八田與一は日本、台湾の歴史の中に埋もれていた。それを古川氏、司馬遼太郎によってようやく広く世に知られる存在になった。

李登輝さんがいつ八田與一を知ったのかはさだかではないが、蔣経国の時代にその片腕となって農業政策を立案していたので、その頃には認識があったと思われる。しかしその頃は表立って日本人に関することを口にできる時代ではなかった。

八田與一は台湾の不毛の大地、嘉南平野の調査に大正七年着手。大正九年に平野を肥沃な地に変える烏山頭ダム着工が決まる。完成は昭和五年、当時の日本の最新土木機械技術が投入され、まる十年間で完成にいたる。日本史上空前の大工事であり、昭和五年完成時は世界の貯水量を誇った。また平地に



は水路を張り巡らせ、その水路は三万六千キロにおよび、万里の長城、千七百キロをはるかにしのぐ。

台湾総督府の年間予算が五千万円の時代に工費は二千五百万円。「嘉南農田水利組合(現在の名称)がつくられ、受益者が組合員になり、日本政府が補助金を出すという仕組みがとられた。それだけの大工事であるから宿舍街、小学校、病院がつくれ、バスコート、プール、道場もあったという。しかしダムの設計施工の責任者八田與一の家は三十坪あまりの粗末なもので、そこで八人の子供を育てた。東京帝国大学土木工学科出身の台湾総督府技師から民間の「水利組合」の技師にすんで転身したのである。

工事のさなか大正十二年関東大震災が起こり、政府の補助金が途絶えた。八田與一は人員整理に迫られ、日本人技師や優秀な人間から解雇した。技術者、優秀な人間は就職先に困らないだろうが、ダムは

水利受益者ひいては台湾のものであり、その現地の人々が働くのが本来の姿だということである。単純労働を担っていた人達は、真先に解雇されるのは自分たちだと思っていたので、八田與一に感謝したという。八田與一は昭和十七年陸軍に徴用され、大洋丸でフィリピンに調査に向かう途中米潜水艦により撃沈され死んだ。その妻外代樹は終戦十五日後の九月一日、遺児たちに簡素な遺書をのこし、烏山頭ダムの放水口に向かって身を投じた。

八田與一の東京帝大入学時には留学帰り古市公威教授がいる。フランス留学中、古市の刻苦勉励している姿に下宿の女主人が少し休んだらどうかというところ、古市は「自分が一時間休めば、日本が一時間遅れる」と答えたという。

また直接の師に広井勇教授がいた。小樽港の設計施工をした。一貫して現場の指揮をとり、誰よりも早く現場に行き、誰よりも遅くまで現場に残った。「コンクリートを自ら練ったといわれる。」「設計も大事だが、それ以上に施工と工程管理が大切であるとも言った。小樽港は日本の港湾のなかでもずばぬけた傑作だという。

その後東京帝国大学で、土木学を講じた。「広井がいなければ、日本の近代土木は五十年の遅れをとった」と言われるほどの偉大な教育者でもあった。「男のために工学はあるのか」と言う哲学的な話もしきりにした。「工学によって数日を要するところを数時間に短縮し、日の労役を時間に留め、それによって得られた次官で静かに人生を思惟し、反省し、神に帰るの余裕を与えることにならなければ、我ら工学には全く意味を見出すことはできない」。札幌農学校出身を彷彿とさせる言葉である。因に広井は農学校二期生で内村鑑三、新渡戸稲造と同期だった。

八田與一に台湾行きを勧めたのは広井である。烏山頭ダムでの八田與一の仕事ぶりの手本のひとつは広井であったろう。そしてまた、哲人たる日本人が当

たり前のようについて、公に尽くす精神が漲っていた。

そのような「日本精神」を李登輝さんはことあるごとに褒めてくれた。自分が受けた日本人としての教育を誇りにしてくれた。戦後の日本人の自虐史観や台湾の蒋介石時代の反日教育を嘆き憤った。しかしそれらの話はいわば前振りであり、李登輝さんの講演の主題はいつも刻々と変化する国際社会における日本と台湾の現在とその紐帯の強化、中国の脅威。

二〇一〇年八月、台湾は米トランプ政権からF-16V戦闘機を六六機買っている。やはり二十年前李登輝さんも台湾を(中国の脅威から)守るため、軍備を強化しようとした。しかし中国から横やりが入り、アメリカはF-16戦闘機を売ってくれない。「それならこちらにも考えがある」と啖呵をきり、フランスからミラージュ戦闘機を六〇機買った。そうしたらアメリカはやつとF-16を五〇機売ってくれた。そんな具合に熱弁は続く。李登輝さん個人は穏やかで敬虔なクリスチャンでありながら、いかに自分の国を守り抜くかというリアルな話に、彼が偉大な実行者であることをいつも実感させられた。

東日本大震災の際にも李登輝さんは日本人の自律自制心を称賛し、何冊も本で復興の提言をしてくれた。書かなければ居ても立っても居られない、というような熱い心を寄せてくれた。人口三千三百万人の台湾から二百五十億円の義捐金が贈られてきた。だが台湾の知人に言わせると、被災地の役所に直接寄付をしたり、日本の友人に託したり、総計三百億円を超えているはずと云う。日本政府が各国の義捐金の額を明らかにしないのは金銭の多寡で感謝の念に濃淡ができないようにとのこと。日本人が金額の多寡で国を評価するかの如きつまらない話だ。

最後にこの稿の逸話はほぼ古川勝三氏、司馬遼太郎の書からの孫引きであることをお断りしておく。

# 奨学生頑張ってます

## 令和三年五月度報告より

東海学園大学 スポーツ健康科学部 三年生

勝 成望 (かつなるみ)

五月七日〜九日にかけて行われた「東海インカシ」で、走高跳優勝、四×〇〇メートルレース三位、走幅跳四位、三段跳四位という結果をおさめる事が出来ました。走高跳はメートル六四センチという大会に出場した中でも、良いパフォーマンスを行うことが出来ました。

今回、コロナウイルスの関係で、大会開催自体も危まりましたが、そんな中でも関係者の方々のおかげで開催されることとなり、感謝にたえない三日間となりました。

今後、六月十八日〜二十日にかけて、岐阜メモリ

アルセンターで行われる「西日本インカシ」に出場させて頂くため、そこでも自分のパフォーマンスを発揮できたらと思います。



東京藝術大学 美術学部工芸科 二年生

吉本 安莉 (よしもとあんり)

私は鍛金専攻に進みました。もともと金属という素材に関心があったこと、作品制作をするうえで最初から最後まで自分の手で作業を行えるということ。金属でハンマーで打ち鍛えることによって作品を造形していくという、素材との対話性に興味を持ったということが理由です。金槌や、当て金など道具作りから学び始め、今では鍋や花器を銅絞りという技法をもって製作しています。最初はなかなか銅板が絞れなかったり、楕圓(金槌を打った時に銅板に残る跡のこと)がバラバラで、全体の形までもがほこぼこになってしまったり、なかなかうまくいきませんが、次第にうまく打てるようになって、技術の向上が目に見えて現れてくれるのはとてもうれしいです。



課題をやっていくことで学びがあるので、自分の作品と呼べるようなアートは製作しませんが、三年生に上がると同時に自分の作品を作り始めるので、今はその準備をしたいと思っています。

東京藝術大学 音楽学部楽理科 三年生

大堀 さち (おおほりさち)

大学一年生の頃から続けている音楽アウトリーチ活動も、コロナ禍の影響を受けており、簡単に病院や福祉施設などに赴いて演奏会を開くということが出来ていない状況にあります。しかし私は、今だからこそ様々な人たちに音楽を届けたいと思っており、現在、色々な方法を模索しています。三月にはオンラインと対面の形式を融合させたアウトリーチを都内の高齢者施設で行いました。これは、ピアノ等の楽器を所有していない施設のために、事前に演奏を収録した動画をお見せしつつ、対面で楽曲の解説を行うというものです。これまでは、楽器の無い施設には出向くことが難しいと考えていたのですが、コロナ禍でオンラインという手法が一般的になったことで、この課題を払拭できると思いつきました。

また、コロナ禍の影響を受けたことで、私の中の「アウトリーチ」の対象となる範囲が広まったような気がします。以前は「アウトリーチ」といえば、病院や障がい者施設、高齢者施設など、コンサートホールに足を運ぶことが難しい方々のためのコンサート

名古屋大学 文学部人文学科 四年生

熊崎 帆乃花 (くまざきほのか)

大学の研究室では、愛知県東栄町の伝統文化であり、国指定の重要無形民俗文化財である「花まつり」に関する研究を行っています。

長い歴史を持つ「花まつり」ですが、街の人口の減少により、若い世代の祭りの担い手に爛して問題を抱えています。このことから、私たちは、子どもたちが楽しみながら「花まつり」について学ぶことができ

ト、というイメージを強く持つようになりました。しかし、アウトリーチ活動がオンライン化してきている中で、アウトリーチはそのような方々以外にも音楽に興味を持っていただくきっかけになりうるのではないかと思います。



る機会が必要だと考え、小中学生を対象にした謎解き企画を立案しました。実際に展示される資料を絡めながら、「花まつり」の歴史や伝統を探検するような気持ちで、そして謎解きにワクワクしながら「花まつり」について学べるように工夫をいたしました。現在は地元教育委員会の方々と連携しながら、今年十月の実施に向け準備を進めています。



有我 和真（ありがかずま）

今年度から臨床薬物動態学教室への配属が決まり、研究室では与えられたテーマに関して、先生や先輩方の助けを得ながら、自身で文献検索や実験手法の計画立て、さらに実際に実験を行っています。研究テーマは骨代謝について、破骨細胞の分化成長を抑制することで骨粗鬆症を改善する薬があるデノスマブの詳しい薬理作用を調べることです。現在は作用を評価するためのマウス実験系を構築し、さらに既存薬よりも活性の強い薬を開発したいと考えています。

春季休暇中に危険物取扱者の資格勉強をしました。難易度自体はそこまで難しいものではありませんでしたが、私が実際に使ったことがある試薬などが危険物に指定されていることが多く、それぞれの物性や消火方法などを詳しく学ぶよい機会となりました。

富山大学 医学部看護学科 三年生

小川 文華（おがわふみか）

春休みの三月中旬に手術をした。元々中学二年生の頃から「WPPW症候群」という不整脈の一種の病気の診断を受けていた。動悸の発作が増えてきた事もあり、主治医の先生と話し合い、カテーテル手術にふみきした。

結果として「WPPW症候群」ではなく「房室結節エントリー性頻拍」という病気による動悸であった事や、心室中隔にある、人には余分なケント束は「Nodo-Ventricular Fiber」なの（非常に珍らしい）

辻 健汰（つじけんた）

卒業研究で取り扱う作家、作品は、中島敦『山月記』です。中島敦の『山月記』は、清朝の説話集『唐人説書』のなかの「人虎伝」という話を素材にして作られています。そこで私は、卒業研究の中で、この『山月記』と「人虎伝」を比較することで、『山月記』を読み解いていくという研究を行います。しかし、研究を行ううえで問題点もあります。それは、先行研究が多く、自分のオリジナリティを出すのが難しい点にあります。『山月記』に限らず、古典の作品等を典拠に持つ作品は、その二つの作品の比較から行う研究は数多くされてきています。そのような中でも、自分が最初から行いたいと考えていた、比較による研究において、先行研究には無いような研究を行うために、現在は「人虎伝」の作品分析自体も行うという方向で考えています。これまでの先行研究では、『山月記』と「人虎伝」の違いに着目し、『山月記』の作品分析を行うものが多く、「人虎伝」の深い内容まで着目されることはほとんどありませんでした。「人虎伝」の作品分析、『山月記』の作品分析をまずは別々に行い、その作品分析を比較することで、新たな視点が生まれてくるように考えています。よりよい卒業論文が完成させられるように、精進していきます。

現象で、治療は不要である事が分かった。成功したと言えないが、手術は終わった。手術は富山大学付属病院で行った。

私はそもそも、入院どころか点滴ですら初めてで、導尿や麻酔も、未知の体験ばかりであった。看護学生として技術として習った導尿を、自分が患者として経験したり、塩分制限のある病院食を食べたりし、学んだ事は多くあった。自分が実際に患者として経験したことは、私にとって大きな糧となった。

これをこれからの人生に活かしていきたい。

シリーズ 第32回

この本をあなたにも薦めたい

伊藤青少年育成奨学会 事務局長 加納 志貴

『李陵(りりょう)』

漢の武帝は絶対の存在であった。

何となく武帝は大君主である、そのあらゆる欠点にもかかわらず、この君がある限り、漢の天下は微動だもしない。高祖はしばしば措(お)くとするも、仁君文帝(ぶんてい)も名君景帝(けい)も、この君に比べれば、やはり小さい。ただ大きいものは、その欠点までが大きく写ってくるのは、これはやむをえない。

武帝は北辺を脅かす匈奴の徹底的討伐を決意し、いくたびか兵を動かした。第二回の遠征は、天漢二年、甘肅の方面にむかって行われている。武將李陵が、不運な戦闘の結果、文字通り矢折れ刀つきで匈奴に降したのはこの戦のことである。

漢の勢威の絶頂に当って五十余年の間君臨した武帝だが、その中年以後ずっと、靈魂の世界への不安な関心につきままとわれて、生来(しょうらい)の闊達(くわんだつ)かつた(かつた)だった彼の心に、年と共に群臣への暗い猜疑を植えつけて行った。帝を取巻くものは、佞臣(ねいしん)に非(あら)ずんば酷吏(こくし)であった。

群臣皆、帝の顔色を伺(うかが)う李陵を語(かた)りぬ。その中(なか)にあつた一人、司馬遷(しまたへん)のみが、「潜(ひそ)かに彼の地(ち)にあつて何事(なにごと)か漢(かん)に報(う)じんと期(ま)してのこと……」と説(と)き、宮刑(きうけい)にあつた。

一族皆殺された李陵は、匈奴として生きることを決意する。そして、あくまでも降(くだ)らず、北(きた)の荒野(あらの)で人生(じんせい)を抜(ぬ)く蘇武(そぶ)と出(で)会い、やがて漢(かん)と匈奴(こつこ)との間(ま)に和解(げんかい)が成(な)り、蘇武(そぶ)は凱旋(がいせん)して行(い)く。

義(ぎ)を明らかにしようとして願(ねが)ったばかりに宮刑(きうけい)に処(お)せられて生き恥(いきぢ)をさらした司馬遷(しまたへん)は、そのためにま

漢の武帝は絶対の存在

著……中島 敦(なかしまあつし)

発行……岩波文庫 二〇〇四年第十七刷

『山月記・李陵他九篇』より

た転(てん)して権力(けんりく)の中枢(ちゅうしゆ)に参画(さんわ)する身(み)ともなる。

圧倒的な運命(うんめい)のもとに弄(も)てもあそばされる人(ひと)たち。

司馬遷(しまたへん)は、史記(しき)に云(い)う。「天道(てんたう) 是(こ)か非(ひ)か」。「人(ひと)、如何(いか)に生(な)くべきや」。

中島敦(なかしまあつし)一九〇九―一九四二この文章(ぶんしょう)の特色(とくしよく)は、漢(かん)文調(ぶんてう)にもついていた、硬質(こうしつ)な文体(ぶんたい)にある。漢字(かんじ)表現(ひょうげん)による極めて圧縮(あつしゆく)された表現(ひょうげん)は、読み手(よみて)の論理的(ろんりてき)抽象力(ちやうざうりき)と結びついて、深くえぐらせる。「李陵(りりょう)りりょう」は、中島(なかしま)文(ぶん)学(がく)最高(こくごう)といわれる作品(さくぴん)だが、他にも、中国(ちゆうごく)古典(こくでん)に取材(さいざい)し、これに肉(にく)づけをした「山月記(さんげつき)」「弟子(でし)」などの諸(しよ)作品(さくぴん)がある。一度(いちど)は正対(せいたい)して読(よ)んでほしい。

中島敦『狼疾記』より

人生(じんせい)といふものは、螺旋(らせん)のらせん階段(かいたい)を登(のぼ)って行くようなものだ。この風景(ふうけい)の展望(てんぼう)があり、また廻(めぐ)る(まわ)り上(あ)りて行(い)けば再び同じ(おな)じ風景(ふうけい)の展望(てんぼう)にぶつかる。最初の風景(ふうけい)と二番目(にばんめ)のそれとはほとんど同じだが、しかし微妙(びょうびょう)かすかながら、第一(だいいち)のそれの方がやや遠くまで見えるのである。第二(だいに)の展望(てんぼう)にまで達(た)している人間(にんげん)にはその僅(わず)かの違い(ちがひ)が解(と)けるのだが、また第二(だいに)の場所(ばしょ)にいる人間(にんげん)にはそれが解(と)けらな。第一(だいいち)の場所(ばしょ)にいる人間(にんげん)も、自分(おのれ)と全く同じ(おな)じ眺望(てんぼう)しかもち得(え)ないと思(おも)っているのだ。事実(じじつ)、話(わ)す言葉(ことば)だけを聞いていれば、二人(ふたり)の間(ま)にはほとんどとんと差(さ)異(い)は無(な)い(な)い)のだから。

佐藤 匠馬 (さとう たくま)

昨年十二月に、脳の血管腫の切除手術を受けました。顔の痺れがきっかけで診断を受けたところ、脳に異常があることがわかり、すぐに入院することになりました。これまでに大きな怪我や病気をしたことがなかったのに、不安で仕方ありませんでしたが、担当してくれた医師や看護師の方々のご尽力もあり、無事に退院することができました。約1カ月の入院生活を経験して、1日を噛み締めて生活をしなければならぬと痛感しました。「明日死んでいい」といふような言葉を耳にすることがありますが、あなたが間違っていないと思います。それくらいのおおかげで日々生活をし、後悔のないものにしたよ。

愛知教育大学 教育学部初等教育教員養成課程 三年生

安井 香妃 (やすい かほり)

二月に椎間板ヘルニアを発症してしまい、手術を受けました。二月は入院し、リハビリを行い、大学を休んでいました。自分のやりたいこと、やるべきことの優先順位を判断できず、できないこと、うまくいかなかったことが多くありました。大学生活でしかできないことを行いたい反面、身体的、自分のキャパシティ的にできないことがあり、日々かたがたとしていきます。

二年生の一年間、名古屋市教職インターンに参加し、実際の教育現場の中で学びを体感することができました。また、サークルのキャンパカウンセラーという活動から、児童が安全に野外教育活動を行えるように安全面、ルールの徹底、ケアマネジメント、活動の目的、方針などを考え、教員に必要な視点を獲得することを重点的に行っています。自分の人間の能力、資質を向上できるように日々努力していきます。

# 初心忘れずに……

## 頑張ることで感謝を表明

岐阜大学教育学部国語教育講座 卒業生

山本 結月 (やまもと ゆづき)

四年間の長きにわたり、ご支援を頂き本当に有難うございました。大学生活を有意義に過ごし、精神的にも安定した生活を送ることができたのも、奨学金を支給して頂いたお陰であると、心から感謝しております。

私は四月から岐阜県内の高等学校にて国語の講師として働かせて頂いております。慣れない仕事に日々苦勞しながらも、温かい先生と生徒達に囲まれ、充実した毎日を送ることができています。これからも学び続ける姿勢を忘れず、立派な社会人になれるよう努力してまいります。その頑張りが私にできる感謝の表明だと考えます。最後になりましたが、職員の皆様のご健康と貴団体の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

## 文武両道をモットーに日々精進

慶應義塾大学総合政策学部 一年生

日置 南智 (ひおき なち)

この度は、奨学生に選んでいただきありがとうございます。四月は、大学生活に慣れるのに必死でした。

「10人制」ではありませんが、多才な仲間からの刺激が少しでも受けられるように、週二・三日はキャンパスに通い、対面式の授業を受けてきました。残りは自習にて、20も欠かさずオンライン授業を受けています。

## 日本人として誇れる自分でありたい

岐阜大学医学部看護学科 1年生

島田 董 (しまだ すみれ)

李登輝さんの記事について、「自我を排し客観的に解決策を考え、冷静に強固な意志で遂行した」という言葉が特に印象に残りました。日本の教育で学んできましたが、自分そのような精神が身についたとは、まだ思えません。また、学んできたことをそのようにはつきりと言葉で表すこともできません。日本人として誇れるような自分であるために、表面的な勉強ではなく、深く取り組み、学んだことを常に振り返ってみるよう意識したいです。また、そのように日本に親しみをもってくださる方について知ることができ嬉しかったです。意識したい自分の国の良さを知ることができたと思っています。

「卒業生の声」を読み、私も頑張らなくてはと意欲を一層高めることができました。田端みずほさんの「患者が自分らしく生きる」という言葉は、同じ医療に関わる者として大事にしたいと思いました。先輩方は様々な場面で活躍をなさっており、自分のやりたいこと、得意なこと、好きなことを追及する姿はとてもかっこよく、私もそうになりたいです。

## 初志忘れるべからず

五月二十日締切の「学業・生活状況報告書」未提出者が十一人にも上りました。

報告書遅延の事由を明記して申請し、認められれば奨学金の給付は復活しますが、必ず復活するという訳ではありません。もちろん、申請がなければ、そのまま退会ということになります。

今回の場合、すぐに気づいた八人は「移動願」を提出して復活することとなりましたが、残る三人はいまだ何の連絡もありません。

昨年度も三人が給付停止で退会となっています。大人相手に、こちらからいちゃいちゃ連絡を取ることにはしません。初心を忘れることなく、約束を守りましょう。

## 訂正

本紙令和三年四月号二面に記載した「令和三年年度奨学生四十八人内定」の記事中、「岐阜高等専門学校」とあるのは、「岐阜工業高等専門学校」の誤りでした。お詫びして訂正させていただきます。



公益財団法人

伊藤青少年育成奨学会

〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661番地の1  
株式会社パローホールディングス本社内  
※Eメールアドレス、電話番号はホームページでご確認ください。  
<https://www.ito-zaidan.or.jp>



発行 公益財団法人 伊藤青少年育成奨学会  
印刷 新日本印刷株式会社